



# プロ雀士 松嶋 桃さん

*Momoko Matsushima*  
*Matsushima*

柔！賢！潔！！

## プロフィール

京都大学法学部に入学。卒業後、ロースクールに進学。最終的にプロ雀士になることに決めた。第9期後期のプロテストではトップの成績で合格。キャッチコピーは「京大式小型肉食獣」。麻雀のスタイルは肉食系だが、性格は草食系で劇団四季が好き。

## 主な獲得タイトル

第6・7期月刊フジ杯麻雀女王団体戦優勝  
第1回麻雀ブルエンプレストーナメント優勝  
第1・2回姫ロン杯チャンピオンシップ2位

## 学生生活

—京大に入学した理由は何ですか。  
京大に入学したのは、京都に住みたかったからなんですよ。私は名古屋出身だったので、親は遠くに行くぐらいなら名古屋大で、って感じだったんです。でも、私は京都に住みたかったんで、それを言うと、京大ならいいよ、って親が言ってくれて。冗談半分だったと思うんですけど、そこからがんばり始めました。

—法学部に進まれたそうですね。  
法学部を選んだのは、入った後にやりたいことが決められるかな、と思って。高校生の時はまだやりたいことが全然なくて、あまり目標とかがない子だったんですけど、法学部だと就職も潰しが利くかな、というのと、なんとなく弁護士がカッコいいかな、というのもありました。高校の先生に目標がないことを相談した

ら、選択肢や可能性を広げるためにも京大の方がいいのでは、と言われたのも志望動機の一つですね。

—ロースクールにも通われたとかで。  
そうなんですよ。あんまり卒業後を考えないで、4年間何もないまま大学を卒業しちゃったんですよ。新卒ブランドを無駄にしたってみんなから怒られたんですけど、そこで、みんなロースクールに行ったら、私も行ってみようってなりましたよ。やりたいことがまだ定まっていないう最悪の状態だったんですけど、そこまで行ったら新しいものが見えるかもしれないと思って。実際行ってみたら、こんな適当な気持ちで入ってはいけないところだったって思いました。ロースクールに行くということは、業界について具体的なことを詳しく知るわけ

じゃないですか。そこで、私は何も知らなかったことに気づき、がんばっている人たちに出会って仲良くなることで、私の道はここじゃない、ってことがわかって結局のところはよかったですね。6年法律をやってきて、無駄だったといえば無駄だったかもしれないけど、これはこれで置いて別何やってもいいんだと思って、卒業した3か月後にプロ雀士になりました。わけわかんないよね(笑)。

—バイトとかされてましたか。  
してました。雀荘では大学3年生くらいから5年ほどしてたんですけど、その前もいろいろやってました。個別指導の先生とか家庭教師とか、あとテレポもやってました。人に突撃で電話かけることってあまりないからちょっと面白い経験をしました。接客は雀荘だけです。

(葉・3 隣)  
(クリスマスでは非リアの市民権なんて；編)

はみだし  
すてーじ

ハロウィンが過ぎればまちはクリスマス  
⇒ハロウィンが着々と市民権を得てる中

## 麻雀生活

—麻雀はいつぐらいから始めましたか。  
5歳くらいにおじいちゃんに教えてもらってからです。小学生になる時に、このくらいできなきゃダメだ、って言われて将棋と一緒に習いました。将棋よりも派手だったので麻雀のほうが面白く見えたって感じですね。麻雀を覚えて、これで立派な小学生だと思って小学校に入ったら、周りは誰もできなかったっていうね(笑)。そんなわけで、よく家族でやってきました。小学生の時は符計算<sup>1</sup>で足し算をマスターしたぐらいですよ。京都に来てからは入学式前から打ってましたね。麻雀打てる、って新歓で言ったら、女子がまともに打てるのが珍しいって面白がられて。京都で初めて和<sup>あが</sup>ったのが、東一局<sup>2</sup>親番<sup>3</sup>での国士無双<sup>4</sup>っていう。その人と麻雀することはもうなかったんですけど(笑)。ここでめっちゃ負けてたら、私弁護士やってたかもしれないですね。

—プロ雀士を目指したきっかけは。  
ロースクールには特待生で入ったんですけど、成績が落ちると特待が切れちゃうので、泣く泣く勉強してました。そんなときに、自分は何がしたいんだろう、と考えたら、麻雀だったんですよ。今までずっとしてたのはこれだけだったんですよ。そのときくらいから、好きなことをやって生きていくための方法について、ものすごくまじめに考え始めました。

—プロ雀士ってどんな職業ですか。  
一口にプロ雀士と言ってもいろんな人がいます。男の人ではサラリーマンやりながら、土日だけ対局に行くって人もいますね。私は専業の女流プロで、雀荘側から呼んでいただいてそのお店で対局するお仕事が多いですね。この時間からこの時間まで来てください、日給いくらですよ、って。それを転々としながら週に4回か5回ぐらいやる、っていうのがメインのお仕事で、他には、新聞に麻雀問題やコラムを書いたりとか、ニコニコ生放送などの麻雀配信に選手や司会として出たりとかいろいろしてます。

はみだし  
すてーじ

もーいーくつ寝ーるとーお正月？  
⇒もーいーくつ寝ーるとー春休み？

## 麻雀生活

—リーグの賞金だけで生活してるかと。  
それはいつかそうならいいなという夢ですね。私たちって参加費を払って対局してるんです。勝ったら賞金ももらえるけど、負けたら何にもない。だから、やっぱりそうなるには、麻雀がもっとメジャーになってイメージが良くなって、将棋みたいになればいいなと思うんですよ。でも、麻雀という運が少なからず絡むゲームの性質上、まったく同じようにはできないかなと思ってるのも事実。食べていけるの、ってよく聞かれるんですけど、私に限ったことでは普通に通に全然食べていけますよ、って答えます。たぶん全然なじみのない職業だと思ってるんですけど、思ったより大丈夫です。

—麻雀のイメージアップ、ですか。  
京大生の時は、周りの人みんな麻雀をやってたし、みんな麻雀好きだから、私も麻雀ばかりやっててすごい楽しかったんですよ。でも、やっぱり世間だとタバコもくもくしたところで怖い人たちがやってる、雀荘怖い、みたいなイメージを持った人がいっぱいいたから、そういうイメージを変えられたらいいなと思いますね。私の中にあるような、家族で仲良く打ってるよとか、友達増えるよとかっていったイメージにもっと変えていきたいみたいなのはありますね。それを自分が食べていけるくらいの仕事にできたら、それはすごくいいなあ、っていうのは、プロになってから後付で思った部分も多いんですけど、プロになる前からちょっと思ってたことでもあります。麻雀の普及活動の一環で、麻雀教室を開く人もいますね。私は女流プロ16人で麻雀アイドルグループ「More」ってのをやって、麻雀の暗いイメージをなくそうと歌って踊ってます。

—どのくらい麻雀を打つんですか。  
お仕事では、月で200～250半荘<sup>5</sup>ぐらい打ってますね。そのうち女流リーグでは32半荘打っていて、その他不定期の公式戦がちらほら。あとは家でネッ

## 麻雀生活

ト麻雀をしたりしてますね。たぶん、学生の時もそのくらい打ってた気がします。今思えば、もう少し勉強してたらよかったと思いますね。

—プロ雀士同士の交流はありますか。  
ありますね。麻雀の勉強会として、おじいちゃんからおねえちゃんまで集まることもありますよ。この局面ではどうすればいいか、みたいなのをみんなで一日中くらい考える、とか。

—京大生に一言お願いします。  
自分が本当に楽しいと思うことを続けたいから、意外と見えてくるものは大きいんです。なので、それが今見つからないというときは自分ができていることをして、可能性を広げてみる。そしていつか見つかった時に、可能性を広げるために今まで使ってきた力をそこに全力投球したら、楽しい生活が待ってると思います。だから、将来の目標とかが見つからなくてもやもやしてる時も、今できることを大事にして将来に備えたらいいかなと思います。

今思うと、大学生は時間が死ぬほどあるので、その時間の使い方で、なんとなく過ごしてても絶対に将来に影響してくると思います。だから、なるべく自分が楽しいと思えることを探して、楽しいと思ったら一度全力でぶつかってみると、意外と将来につながるかもしれないし、そういうものをいつも意識しながら楽しい大学生活を送ってください。

—ありがとうございました。

- 1. 麻雀の点数計算における二大要素の一つ。
- 2. 麻雀を開始した第1回目のゲーム。
- 3. 自分が他に比べ1.5倍の得点修正が入る順番。
- 4. 麻雀の役の一つ。確率は約0.043%。
- 5. 麻雀1回分の単位の一つ。全8局の構成。

ブログ ツイッター  
@matsumomo916

(工・4 きゅーり)  
(長期休暇と離れてしまうと考えるだけで寂しい。これって恋？；編)